



ほんよも No. 002



4/20（月）、図書室 リニューアルオープン!!

4月20日（月）の昼休みから、図書室がリニューアルオープンします。図書室は2階、3年生教室の向かいです。図書室の開館時間は、

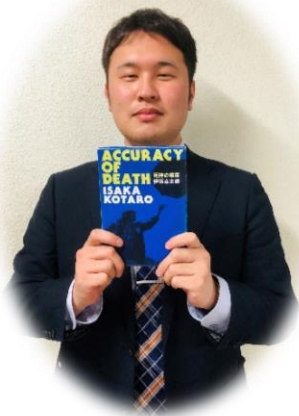
昼休みが13:00～13:15、放課後が15:30～16:30

です。（※前回、12:50～と書きましたが、それでは図書委員が昼食を食べる時間がないので、13:00からにします）

まだまだ未整理のところもありますが、みなさんが一番手にとることが多い小説の棚は整備しました。オススメの小説がたくさん並んでいます。他にもいくつか特集コーナーを設けています。ぜひ覗きにきてくださいね。**来室先着20名には、特製しおりをプレゼントします。→**



なお、現在、図書室の管理システムを切り替え中です。切り替えが終わるまで、貸出はアナログな「貸出簿」で行います。



さて、今日は、図書室にある本の中から、『**死神の精度**』という本を紹介します。今日の紹介者は私・川口ではなく、3B 担任・国語科・男子バレー部顧問・**野田真平先生**です！

～人間の最期をプロデュース！？～ 『死神の精度』 伊坂幸太郎

内容・あらすじ

音楽が好きだという、奇妙でクールだがやや天然の死神・千葉。彼は、上役から伝えられた調査対象の人間を8日間かけて観察し、可・不可の判定を下す。可と判断された人間は寿命まで生きることができ、不可と判定された場合は事故などで命を落とす——。千葉が出会う六つの人生を絶妙かつ軽妙な筆致で描く、ちょっと変わった物語。

野田先生の感想

本嫌いな僕を小説の世界に引き込んでくれた一冊です。

主人公は死神。

死神の仕事という一見恐ろしい内容とは裏腹に、どこが人情味もあり、暖かさが感じられます。

作品の特徴は、1つの出来事が複数の人物の視点から描かれるということ。各章がそれぞれの人物の視点になっており、片方の人物の章からではわからなかったことがもう片方の章で見えてきて、最後に全てが明らかになります。

私はこの作品から、「想像すること」の楽しさを知りました。

漫画とは違い、絵がないからこそ自分の頭の中でそのシーンを想像し、作り上げることができ

る。
これこそが小説の楽しさだと思います。そんな楽しさを存分に味わわせてくれる一冊ではないでしょうか。

もしかしたら、あなたの後ろでも死神が笑っているのかも…？



なお、図書室には野田先生
オススメの伊坂幸太郎さん
コーナーもあります。
ぜひ見てください！

